

●カイト・ランナー

チンギス・ハンは13世紀のモンゴル草原で凧を揚げていただろうか? 「千夜一夜物語」時代、アラビアの空を凧は舞っただろうか? という妄想に近い自問に、私なりの答えを求めて筆を取った。現地に赴く足も時間も限られるので、手持ちの少ない情報から推論するほかない。推論の流れは、中国から日本へ、京・大阪から江戸・長崎へ、長崎から東南アジア、インド、アフガニスタン、イランへとシルクロードに凧の幻影を追う旅となる。



Khaled Hosseini



写真1

アフガニスタンの作家ホレド・ホセイニに『The Kite Runner』という小説がある(写真1)。カイト・ランナーとは、凧合戦で切り落とされた相手の凧を追い、戦利品として手に入れる合戦の勝利者のパートナーのことを意味する。小説の心象風景とは異なるが、私の故郷、長崎にもカイト・ランナーはいた。長崎方言の「やだもん」は落ちた凧を略奪する暴れ者のイメージがあるが、ハタ合戦の戦利品を、野を越え山を越え追う大人の姿を子どもの私はうらやましく見ていたことを思い出す。

読者もしばしカイト・ランナーとなって悠久の天の時空を超える旅にお付き合いいただきたい。

●中国から日本へ

韓信から約600～700年後の南北朝時代から唐代、中国の「紙の鳥」は「紙鳶(しえん)」と呼ばれる子どもの玩具となった。但し、庶民への大流行は、ずっと後の明朝時代、凧の名手だった『紅樓夢』の著者曹雪芹が『南鷄北鳶考工志』を著し、凧の作り方、揚げ方などを紹介したことが動機となったとも言われる。その前、隋、唐の時代に「紙鳶」は海を渡り、白鳳、平安時代の日本の空を舞う。高価な布と高度な飛翔テクニックが必要な当時の凧は、隋・唐からの技芸に秀でた渡来人集団がまずは宮廷貴族に凧揚げを指導したため、「紙老鷄」「紙老鷓」「師老之」等の凧を呼ぶ新語が生れた。いずれも「しろし」と読む。「老」も「師」も何かに秀でることを意味する。凧と言うより指導者を表わす風でもある。「紙鳶」同様、最古の日本の凧を表わすことばである。「独楽」にも「独楽師(こまし)」という指導者がいた。凧が子どもの遊びになると、当然これらの新語は姿を消した。菅原道真公の師、島田忠臣著「田氏家集」(仁和年間<885～888>)の詩に、春の日に沢山の紙鳶(しえん)が舞う様子が詠まれたのが文献上の最初の確実な記録で、「和名類聚抄」(承

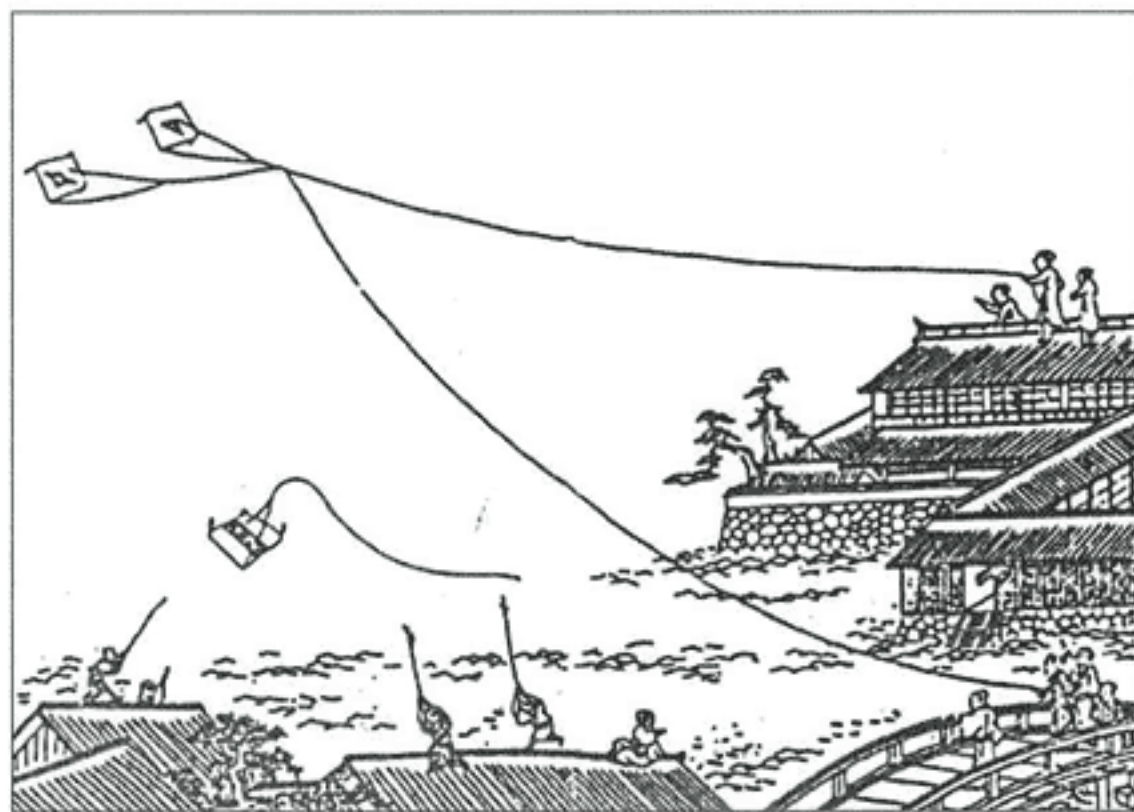
平年間<931～937>)、「類聚名義抄」(仁治元<1240>年)と続くが、その後鎌倉、室町時代を通じて約400年、日本の凧の記録は途絶えてしまう。

●「紙鳶(イカノポリ)」の謎

だが、奇妙なことに、400年ぶりに歴史の表舞台に再登場した凧の名は「紙鳶(しえん)」ではなく「紙鳶(いかのぼり)」に変わる。いつ、どこで、なぜ変わったのかははっきりしない。空白期間の理由の一つは「紙」である。高句麗の僧曇徴が日本に帰化し、610年に紙と墨の製法を伝えたが、紙が一般の手に渡ったのは11世紀以降だった。当然、紙鳶(しえん)も紙と運命を共にした。戦国の世が明ける頃、紙はようやく市民の手に届いた。同時に15～16世紀、凧はようやく貴族から大人の手へ、そして子どもの手にも渡る。そして、凧が町や村の空を舞い始めたのもこの頃である。空白の理由が紙だとして、なぜその間、凧の名が「しえん」から「いかのぼり」という全く別の名に変わってしまったのだろうか? 一度定着したモノの名はそれほど変わるものではない。(続く)

(参考引用文献)

『凧大百科』(比毛一朗著、美術出版社)



江戸末期の
出島の凧揚げ光景

出島住民と長崎市民が、海を隔て屋根の上でハタ合戦を行っている。切られたハタを追うヤダモンの姿も見える。現代のハタ合戦は、市民レクリエーションの場として山野を舞台に行なわれる。

●編集後記

2月、如月、春到来。2月のメインイベント、バレンタイン。チョコレート売り場には若いも若きも女性の人垣ができる。チョコの原料であるカカオは、その樹が「カカオ・デプロマ=神々の食べ物カカオ」と名づけられていた。学名はTheobroma「神々の穀物」。愛の告白も神の思召して、実ることを祈ってしまう。甘いものの誘惑と体重増加のハザマで揺れ動く女心、でもポリフェノール摂取と言いつつも、仕事にかけるチョコの美味しさは格別なもの。何事もほどほどに、心と体の健康を保つ秘訣かもしれない。今年は何個チョコを買うのかな?(あしだ)

●編集部からのお願い

NTSニュースでは読者の皆様からのお便りや投稿をお待ちしております。また、開催予定の勉強会・イベント等、掲載をご希望される方は下記宛までご連絡ください。

〒113-8755 東京都文京区湯島2-16-16 (株)エヌ・ティー・エス「NTSニュース」係

FAX: 03-3814-9152 E-mail: k-kunimoto@nts-book.co.jp

NTSニュース

2006年2月号(通巻84号)
2006年2月7日発行